

技術開発力と社会的責任で 世界の食文化の発展に貢献



▲松本和久社長

明治29年に日本で最初の動力精米機を考案したのが会社のスタート。昭和30年代に穀物乾燥調製貯蔵施設や大型精米プラントを次々と建設し、食糧の安定供給に尽力してきた。現在は、世界の3大穀物（米・小麦・とうもろこし）を中心とした穀物加工機械を世界約150か国に提供し、世界の食文化の発展に貢献している。昨今では、穀物加工分野でも自動・省力化、省エネ、ネットワーク化などが必要とされており、最少人数で効率的にプラントを運営、管理する需要が高まっている。加えて、コスト削減や付加価値商品の開発など、利益向上につながる提案を顧客に示すことが不可欠な時代に突入している。そのニーズに応える一例が新精米プラント「MILSTA（ミルスタ）」。前述の機能や考え方を随所に取り入れた最新モデルで、これからの精米プラントの方向性を

明らかにしている。

サタケの事業領域はポストハーベストで展開されている。収穫後のカントリーエレベーターから炊飯・加工食品まで幅広く、乾燥調製や精米、選別の分野だけでなく、炊飯分野に関しても長年の米加工ノウハウを活用した開発を行っている。米の性状や加工処理に関する知見や技術により、熱源の最適な温度設定や組合せのパターンが提示できるIH炊飯を主力に展開しており、炊飯工場や給食センターなどで使用されている。また、サタケで数少ないBtoCである保存食の開発、製品化も行う。乾燥米飯「マジックライス」や長期保存可能なパン「PAN de BAR（パンデバー）」は、災害時の非常食として、多くの自治体や企業などにも採用されている。

2015年に国連でSDGsが採択され、わが国でも政府・自治体・企業での取り組みが進められているが、サタケは創業以来、主食の安定供給に寄与し、高栄養価米や無洗米などの環境負荷の軽減技術も構築してきた。また、2016年に「豊栄プロジェクト」を発足し、過疎化する農村部の再生・活性化を図っている。さらに、従業員の働きがいや福利厚生の充実を図るため、週休3日制の実施、毎日残業ゼロ、男性の育児休職などに積極的に取り組んでいる。これまでのサタケの取り組みがSDGsの17の目標と一致していることが多く、社会・地球環境保全と企業の社会的責任の観点からさらに深く進めていく考え。



▲新精米プラント MILSTA（ミルスタ）